

舞鶴引揚記念館

京都府の舞鶴港は戦中は旧海軍軍事的拠点として使用されていましたが、昭和 20 年（1945 年）に第二次世界大戦が終結し、旧満州や朝鮮半島をはじめ、南太平洋など多くの国や地域に約 660 万人もの日本人が残されました。これらの方々を速やかに日本へ帰国させなければならなくなり“引き揚げ”が開始されました。“呉“をはじめ順次 18 港の引揚げ港が全国に次々と設置され舞鶴港もその役割を担うこととなり、主に旧満州や朝鮮半島・シベリアからの引き揚げ者、復員兵を迎え入れる港となりました。舞鶴では昭和 20 年（1945 年）10 月 7 日に最初の引き揚げ船“雲仙丸“の入港から昭和 33 年 9 月 7 日の最終引き揚げ船“白山丸“まで、国内で唯一 13 年間にわたり約 66 万人もの引き揚げ者・復員兵を迎え入れました。

1988 年（昭和 63 年）多くの関係者の努力により、引揚げに関する一連の資料を展示する日本唯一の施設として設立されたのがこの舞鶴引揚げ記念館です。引き揚げ者用の栈橋が設置されていた平地区を見下ろす丘に引揚げ記念公園が開設され、その一角に記念館が建設されました。



